

各プログラムの進捗状況について

○京都大学／関西大学

気候変動下でのレジリエントな社会発展を担う国際インフラ
人材育成プログラム

学部生

① アセアン連携大学での集中講義を組み合わせた海外企業体験プログラム

- ASEAN諸国のインフラ整備現場での**インターンシップ**
- ASEAN連携大学でグループワークや集中講義

② 双方向短期留学プログラム

- 日本・ASEANの学生が日本・ASEAN両方の講義・実践を受講
- アクティブラーニングを中心とした実践科目
- 企業での体験活動やインフラ整備現場での**短期インターンシップ**

③ 双方向中長期派遣プログラム

- 個別研究プロジェクトを含む中長期派遣
- 国内研修旅行や**短期インターンシップ**による体験活動

④ 学位取得を見据えた協働学生指導プログラム

- 若手教員による出張講義を含む教育研究指導
- 学位論文の副査を相互に担当
- データ分析やインフラ整備現場の**体験活動**

⑤ 気候変動適応のためのウィンタースクール

- データ処理・解析技術とその気候変動適応への実践
- 若手教員の国際化支援
- データ分析やインフラ整備現場の**体験活動**

修士課程

博士課程

学生派遣・留学生受入れの実績

		H29 2017		H30 2018		R01 2019		R02 2020	
		派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ	派遣	受入れ
プログラム①	計画	6	-	6	-	6	-	6	-
	実績	6	-	6	-	2	-		
プログラム②	計画	12	12	12	18	12	18	12	18
	実績	16	23	23	22	21	22		
プログラム③	計画	3	3	3	3	3	3	3	3
	実績	3	3	3	3	3	3		
プログラム④・ ⑤	計画	-	3	-	4	-	4	-	4
	実績	-	4	-	5	-	4	-	
実績数の合計		25	30	32	30	26	29		

①学部生を対象とした海外企業体験プログラム 《国際インターンシップ》

対象学生：工学部地球工学科国際コース所属の3年生の日本人学生

《国際コースとは》

外国人留学生と日本の学生が切磋琢磨する環境の中で
国際的に活躍できる高度な人材を養成する。

2011年開講。一学年に外国人留学生30名，日本人学生最大10名

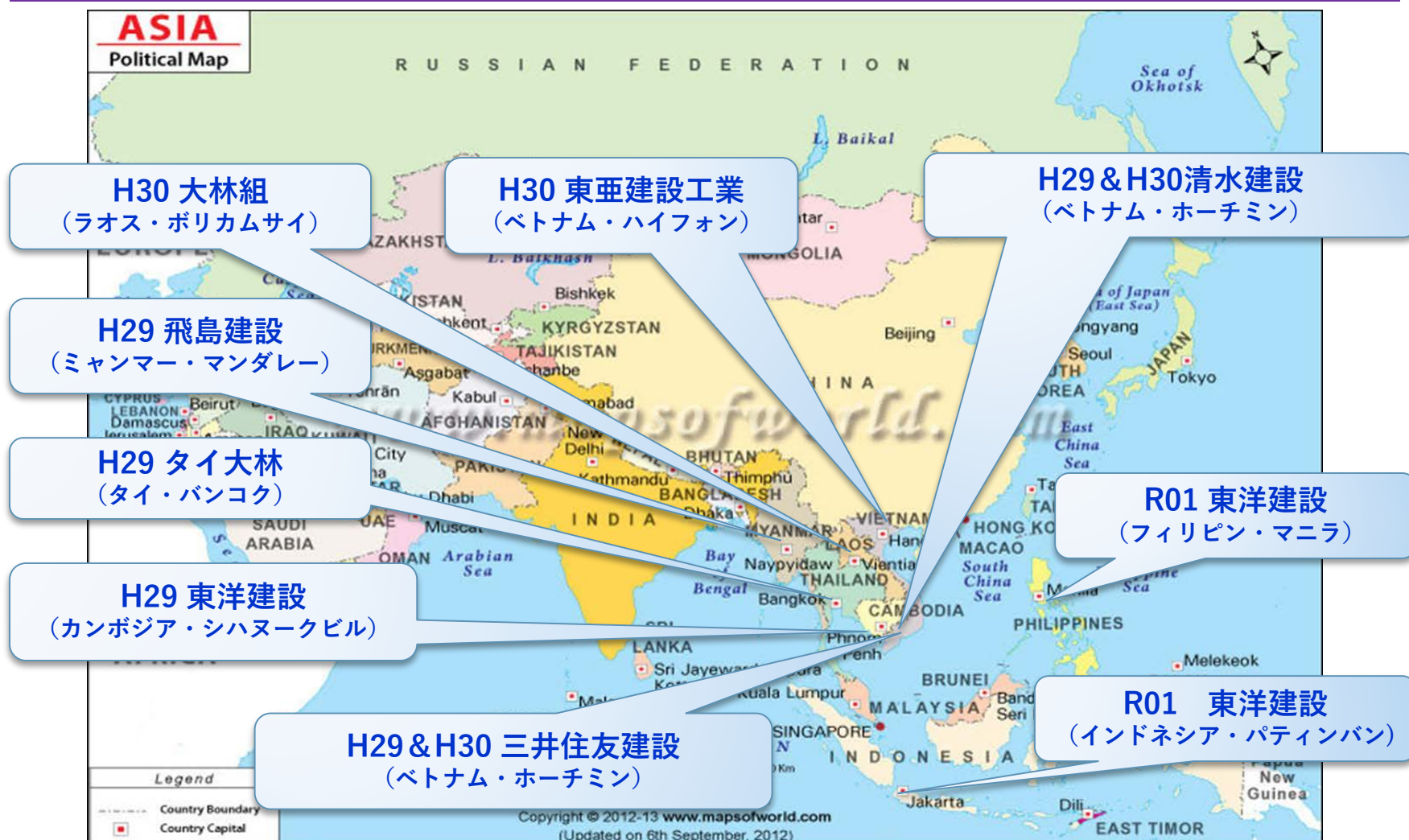
海外のインフラ整備現場でのインターンシップ研修



RSDC修士課程学生を対象とした
双方向短期留学プログラム（フィールド・トリップ）

8月-9月の夏休み期間中，約2週間

2017年度，2018年度，2019年度 国際インターンシップ受入れ企業と現地サイト



国際インターンシップ 課題

- 多額のVISA代金

- インドネシア就労ビザ 18万円
- フィリピン特別就労許可取得 6万円

②修士学生を対象とした双方向短期留学プログラム

- 参加学生：11大学43人
- 開講科目
 - 安寧の都市のための災害及び健康リスクマネジメント(MS)：京都で開講
 - 強靱な国づくりのためのエンジニアリングセミナー(AES)：バンコクで開講
- 日本・ASEANの学生がMS,AES両方の講義・実践を受講
- アクティブラーニングを中心とした実践科目
- MSでは国際インフラ整備プロジェクト企業での短期インターンシップを実施

インフラ関連企業での短期インターンシップ

- プログラム

- 当日の様様

10:50-	社長挨拶
11:00-11:05	主催者挨拶
11:05-11:10	受入側挨拶
11:10-11:40	コンサルタントの仕事の紹介
11:40-12:00	午後のディスカッションでの課題説明
12:00-13:30	ランチ
13:30-14:50	気候変動下の洪水対策についてのグループディスカッション
14:50-15:00	休憩
15:00-16:10	各グループ発表
16:10-16:50	日本の洪水対策の紹介
16:50-17:00	講評・閉会挨拶



東京外国語大学

日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア
知日人材養成プログラム

プログラムの進捗状況について



1. 実施状況

1-1. 短期Joint Education Program

1-2. 交換による長期留学

1-3. 大学院レベルの交換



東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

2. キャリアパス支援

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-1. 短期Joint Education Program【派遣】

- ・ **実施内容**：語学研修、協定校の授業を履修、各国の社会・文化を体験するプログラム（2～3週間）
- ・ **目的**：語学力や各国の社会・文化に対する理解力の向上



【交流会】2018年度ラオス短期派遣



【現地学生との交流】
2018年度カンボジア短期派遣

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	10名	9名	3名
H29	9名	9名	4名
H30	10名	11名	2名
R1	9名	-	-



【連邦議会（ネーपीドー）見学】
2019年度ミャンマー短期派遣

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-1. 短期Joint Education Program【受入】

- ・ **実施内容**：各国言語を学ぶ本学学生とのタンデム学習、日本語や日本文化体験学習（8日～3週間）
- ・ **目的**：知日人材養成の基礎作り

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	3名	4名	6名
H29	5名	5名	6名
H30	5名	5名	6名
R1	5名	5名	6名



【3国合同による開講式】



【ラオス国立大学学長による講演】

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-2. 交換による長期留学【派遣】

- 派遣学生の活動：
ヤンゴン大学、ラオス国立大学、王立プノンペン大学で現地語による授業を受講、現地学生と交流。また、各大学の日本語学科で学ぶ学生のサポートを実施。ヤンゴン大学では、本学の海外オフィス（GJO）を通じ、日本語教育の補助を実施。ラオス国立大学では日本語学科で授業補助を実施。



【王立プノンペン大学での授業風景】
2018年度カンボジア長期派遣

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	2名	2名	2名
H29	3名 (計画数+1)	3名 (計画数+1)	2名
H30	3名 (計画数+1)	2名	3名 (計画数+1)
R1	4名 (計画数+2)	1名 (計画数-1)	なし (計画数-2)

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-2. 交換による長期留学【受入】

・ 受入学生の活動：

本学の留学生日本語教育センターが提供する「日本語総合・技能」等の履修。本学で各国言語を学ぶ学生と日常的に交流。また、近隣の小学校においてボランティア活動に従事。武蔵野市国際交流協会を通じたホストファミリーと交流。



【外語祭に参加】
2018年度ラオス長期受入

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	2名	2名	2名
H29	3名 (計画数+1)	3名 (計画数+1)	2名
H30	3名 (計画数+1)	4名 (計画数+2)	3名 (計画数+1)
R1	4名 (計画数+2)	5名 (計画数+3)	1名 (計画数-1)

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-2. 交換による長期留学【受入】

- ・ ボランティア活動：
近隣の国際交流団体や小学校の協力により実施。日本の学校教育や日本文化への理解を深化。



「小金井市青少年健全育成東部地区 子ども縁日」

- ◆ 活動内容
飲食やゲームの屋台の出店

「小金井市立東小学校 放課後こども教室」

- ◆ 活動内容
自己紹介/色連想ゲーム/色おに/UNOなど



- ・ 参加者の感想：
私はこの学校の生徒たちがとても明るく、話しかける勇気があり、愛らしいことにとっても感銘を受けました。

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-2. 交換による長期留学【受入】

・冬季プログラムの実施

目的：（１）受入学生相互の交流、（２）長期休暇中の学習の継続

内容：（１）日本語学習、（２）学外研修（災害時の対応、ごみ処理など）、
（３）日本文化体験（茶道や着付けなど）

成果：（１）日本語や日本文化に対する知識の深化、
（２）日本人学生および受入学生相互の交流促進



【日本語学習】



【武蔵野クリーンセンターの見学】



【茶道体験】

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-3. 大学院レベルの交換【派遣】

- ・ 大学院生の研究を支援する制度（Joint Education Program）を利用し、2019年度は王立プノンペン大学に2名、ラオス国立大学に1名派遣。各大学で各院生の研究に応じた助言や指導を受ける。
- ・ 現地での日本語教育支援として、ラオス国立大学に1名派遣中。また、ヤンゴン大学において、本学GJ0提供の日本語教室の補助教員として、1名派遣予定。



【ノンフォーマル教育の調査のようす】
2018年度ミャンマー大学院派遣

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	1名	0名	2名
H29	3名	0名	1名
H30	2名	2名	0名
R1	1名	2名	2名

プログラムの進捗状況について

1. 実施状況

1-3. 大学院レベルの交換【受入】

- ・ 2018年度から引き続き、ラオス国立大学から1名、王立プノンペン大学から1名を受入。日本語教育分野の研究を支援。
- ・ 日本とASEAN諸国間の人物交流事業に1名を派遣。小学校で出張授業を実施。
- ・ 大学院進学を目指している研究生を受入。



【小学校での出張授業の様子】
2018年度ラオス大学院受入

	ミャンマー	ラオス	カンボジア
H28	0名	0名	1名
H29	0名	0名	0名
H30	0名	1名	1名
R1	0名	0名	0名

プログラムの進捗状況について

2. キャリアパス支援

・日本人学生対象

- 2-1. 国際交流基金による日本語教育指導助手のインターンシップ
- 2-2. 海外インターンシップ報告会
- 2-3. 卒業生講演会

・留学生対象

- 2-4. 1Dayインターンシップ
- 2-5. 山形スタディツアー
- 2-6. 卒業生の紹介によるインターンシップ

プログラムの進捗状況について

2. キャリアパス支援（全学的取り組み）

■ グローバル・キャリア・センター

- ・ 学生が、自らの人生を設計し、主体的な進路選択、職業選択を行うことを支援
- ・ 学内において、各種ガイダンスや外交官・国家公務員総合職プログラムなどを実施。専任のキャリア・アドバイザーによる個別相談
- ・ 就職情報やインターンシップの情報を随時提供

2019年度 グローバル・キャリア・センター キャリア形成支援プログラム
《キャリア開発ワークショップ》
参加者募集!!

「体験学習」という方法を用いて自分の特徴について知り
コミュニケーションに対する理解を深め グループの人間関係について学びます

全学年対象!!

ベーシックコース

コミュニケーションに対する理解を深めながら、
自分の特徴を知り、対人関係における
コミュニケーション力を伸ばすことを試みます。

↓↓↓どちらかの参加スタイルから選べます↓↓↓

授業の合間に参加できる! A:【4回連続コース】 10月16日, 23日, 30日 11月6日 (毎週水曜日・4限)	効率的にじっくり学べる! B:【1回集中コース】 1月29日 (水曜日・2限～5限)
---	---

場所: アゴラ3F プロジェクトスペース

◆参加者の声◆

- ・課題解決のワークやゲームなどが入っていたので面白かった。
ひとつの活動が終わった直後に振り返りに入ったので、その場の問題をすぐに発見しやすかった。
- ・普段、漠然とわかったつもりでいた自分のコミュニケーションスタイルや、陥りやすい弱点について
具体的な対策を考えることができ、周囲の方々と共有できた。
- ・他の人も独自の悩みや目標を持って参加していることを実感し、コミュニケーションで悩むのは
自分だけではないんだ、と感じた。もっと頑張ろうと思えたことが良かった。

お申し込みは…グローバル・キャリア・センター窓口、ホームページ
またはこちらから→<https://business.form-mailer.jp/fms/dff7aa7108366>



【キャリア開発ワークショップ】
2019年10月～11月、2020年1月実施

プログラムの進捗状況について

2. キャリアパス支援（日本人学生対象）

2-1. 国際交流基金による日本語教育指導助手のインターンシップ

- 大学院生：
協定校の授業や本学の海外オフィス（GJO）
の日本語教室での日本語教育支援
- 学部生：
現地の高校や協定校以外の大学での日本語教育支援、および日本文化紹介活動



【ヤンゴン大学の日本語教室における
日本語教育支援の様子】
2018年度ミャンマー大学院派遣

プログラムの進捗状況について

2. キャリアパス支援（日本人学生対象）

2-2. 海外インターンシップ報告会

海外インターンシップを経験した学生による報告会を実施

- ・ **感想**：インターンシップの具体的なイメージが湧いた、発表者の行動力に感動したなど
- ・ **成果**：インターンシップについて前向きに考える学生が増加

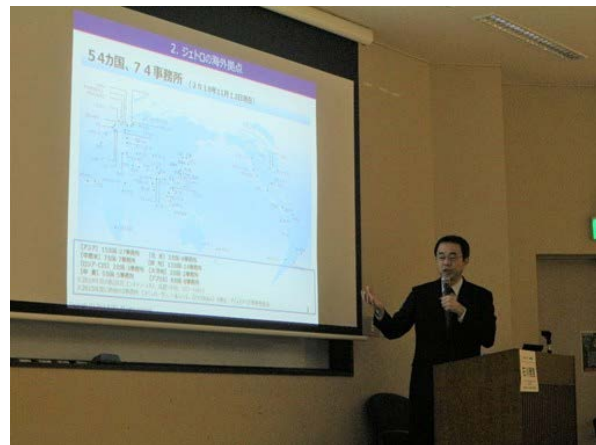


【海外インターンシップ報告会】

2-3. 卒業生講演会

JICAやJETROに勤めている本学卒業生による、大学時代の活動や現在の仕事内容などに関する講演

- ・ **感想**：現地語を学ぶ意義を再認識して学習意欲が向上、就職活動の参考になったなど
- ・ **成果**：今後の学生生活における指針を獲得



【卒業生講演会】

プログラムの進捗状況について

2. キャリアパス支援（留学生対象）

2-4. 1Dayインターンシップ

- ・ ソニー本社と日立建機・土浦工場において実施
- ・ 世界展開力強化事業のロシアや中南米の留学生とともに、先端技術や生産ラインなどを見学
- ・ 日本企業への理解を深化

2-5. 山形スタディツアー

- ・ 本学が山形県の寒河江市と飯豊町で実施したスタディツアーに参加
- ・ JETROとJTBGMTの協力のもとに実施
- ・ インバウンド推進のため、コメの海外販売戦略や観光プランなどを提案

2-6. 卒業生の紹介によるインターンシップ

- ・ 本学卒業生の紹介により、トヨタ工機において3日間インターンシップを実施
- ・ 日本企業での就労を体験



【日立建機・土浦工場】
2019年3月実施



【山形スタディツアー】
2019年2月～3月実施

東京藝術大学

日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

事業名：日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～

◇事業の概要

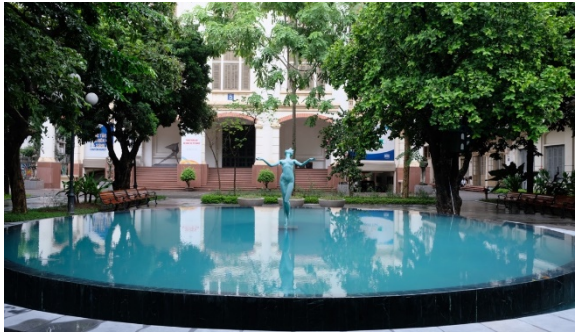
- カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、タイの5カ国に所在する8校の国立芸術系大学と連携し、相互の文化的な特色を活かしながら、文化交流と双方に通ずる課題解決を目的とした共同プロジェクトを展開。
大学間交流を通じて、双方の国際通用性の向上及び教育研究に係る質保証システムの構築を目指す。
- 具体的には、本学と連携8大学の学生・教職員が、ユニット単位で相互派遣・招聘を行い、双方の芸術文化を学び合う共同授業や研究を実施するのみならず、社会実践（展覧会、ワークショップ、アウトリーチ活動）を継続的に実施。



東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇連携大学一覧

大学名	所在国
ミャンマー国立文化芸術大学 （ヤンゴン校、マンダレー校）	ミャンマー
バガン漆芸技術大学	ミャンマー
ベトナム美術大学	ベトナム
ホーチミン市美術大学	ベトナム
ベトナム国家音楽院	ベトナム
ラオス国立美術学校	ラオス
カンボジア王立芸術大学	カンボジア
シラパコーン大学	タイ



連携大学はそれぞれ各国の特色ある伝統芸術の専門的な教育機関である。
上段：歴史の長い元インドシナ美術学校であるベトナム美術大学の校舎、ミャンマー国立美術学校での演奏会の風景
下段：左から、バガン漆芸技術大学の学内展示風景、ベトナムの絹画の授業風景（ホーチミン市美術大学）、ラオスの仏教美術の実習風景（ラオス国立美術学校）

東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション
～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇実施に際するプログラムの設計

【ユニットプログラム】

本学の学部・研究科である音楽・美術・映像の全領域から、年間10種類の交流プログラム（派遣・招聘）を、継続的に実施。

【個別研修のための派遣・招聘プログラム】

さらに、交流プログラムを経て、発展的に個別の研究表現活動のための派遣・招聘プログラムを実施。

◇参加学生数（人）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ユニットプログラム	18	36	33	33
個別研修のための派遣・ 招聘プログラム	0	3	3	4

東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇ 具体的なプログラム例① 【音楽学×ミャンマー文化芸術大学】

民族音楽学を専門とする音楽学部楽理科の学生・教員と、ミャンマー国立文化芸術大学音楽学部の継続的な交流プログラム。

ミャンマー国立文化芸術大学では、現在、音楽学を基盤とする学科開設が計画されている。派遣プログラムでは、ミャンマーの伝統楽器の実践実習を始め、音楽学の調査手法の共有を目的とした研究発表会を現地で開催し、招聘プログラムでは、音楽保存の研究会、技術交流を図るプログラムを展開。本事業を通じて、東南アジアの伝統音楽の保存、音楽学の教育基盤の共同構築に取り組んでいる。



伝統楽器サイン・ワイン（調律太鼓）の実践風景。演奏者が楽器の中に入って演奏する。

東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇ 具体的なプログラム例②【彫刻×カンボジア王立芸術大学】

彫刻（石彫）を専門とする学生・教員ユニットと、カンボジア王立芸術大学の教員・学生による技術交流プログラム。

派遣プログラムでは、アンコール遺跡群の共同調査と、現地にて石材加工に関するワークショップを3年間継続実施し、招聘プログラムでは、本学での石彫実習や、日本の伝統的な彫刻技術のワークショップを開催。アンコール地域遺跡の発掘・修復を管轄するカンボジア政府のアプサラ機構、日本アンコール救済チーム（JASA）と密接に共同しながらプログラムを構築していることも特徴。



東京芸術大学（日ASEAN芸術文化交流が導く多角的プロモーション ～協働社会実践を通じた心のインフラと質保証フレームの構築～）

◇ その他の事例

・ 室内楽教育の普及と基盤構築のために、ベトナム国家音楽院にて室内楽の共同コーチングを実施。その成果発表の場としてハノイで開催した共同コンサートは、本学学生が音楽マネジメントを実践。同コンサートは300名以上の観客を動員し、国内外のメディアでも取り上げられた。



・ 2017年に本学アニメーション専攻が連携大学においてアニメーション制作のワークショップを開催した成果を踏まえ、ミャンマーで最も歴史の長い「ワタン国際映画祭」に参加した。同映画祭では、本学アニメーション専攻とミャンマー国立文化芸術大学シネマ専攻の学生がそれぞれの作品を上映、プレゼンテーションを行った。



新潟大学

メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育
による理工系人材育成



メコン諸国と連携した 地域協働・ドミトリー型融合教育による 理工系人材育成

学生交流プログラムの実施状況・成果・課題等および
学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援について



新潟大学



王立プノンペン大学



ラオス国立大学



チュラロンコン大学



ハノイ工科大学

メコン地域大学

自国のGW活動に
在学生として参加



★GW経験者が
生活支援

2年生
建築系

3年生
経営系

留学経験者
(ファシリテータ)

4年生
電気系

新

<メコン側グループ例>

★地域協働・ドミトリ型融合教育

国籍・学年・専門が異なる
融合的グループワーク(GW)活動
による企業等での課題解決型
アクティブラーニング必修科目
(※個人で講義受講や研究室活動も)



GW活動メンバーの

★ステップアップ参加効果

[受入]

[派遣]

新潟大学

自国のGW活動に
在学生として参加



新

★GW経験者
コミュニティ
が生活支援

1年生
機械系

大学院生
(ファシリテータ)

3年生
情報系

2年生
化学系

<新潟側グループ例>

メコン地域での日系企業(主に新潟地域関連企業)

新潟地域での企業等

★新潟地域関連企業と協働した国際グループワーク(GW)インターンシップ:必修科目

留学期間	短期(10日間程度)	中期(2ヵ月)	長期(6-12ヵ月)	+	事前学習・モニタリング(週報等)・成果発表会・振り返り学習・成績評価
インターンシップ学外期間	3日間程度	1ヶ月	2ヵ月		

実施済み年度	H28 (トライアル)		H29		H30		R1(予定含む)		計
	メコン	新潟	メコン	新潟	メコン	新潟	メコン	新潟	
渡航した留学生数 (プラスは計画からの増)	2	2+3	15+2	15+4	20+5	20+2	30+2	26	130+18
GW参加の在学生数	0	3	26	22	20	21	29	20	141
グループ数, 企業数	-	1, 1	11, 11	13, 16	12, 10	15, 17	15, 12	14, 15	81, 延べ82



中・長期プログラムで実施したGWインターンシップの内容構成と実施事例

新潟地域関連企業等と協働 (約120社に依頼連絡⇒H30年度は27社, R元年度は27社(予定含む)で実施)



(1) 事前グループワーク(GW)学習
(企業作成の学習設計シートを活用して課題内容理解)



(2) 課題解決型の現場研修及び調査とGW討論



(3) モニタリング(週報・訪問・スカイプGW面談等)



(4) 企業での成果発表会(国内は教員も参加)



(5) 新潟大で公開の最終成果報告会(参加複数教員が評価)



(6) 振り返り学習(個人及びグループでの最も重大な変化)

国際テクノロジーGWインターンシップ

新潟地域[受入]



燕市内の金属加工の企業: レーザー加工品・精密板金, 製缶・折り曲げ・溶接加工品, 集塵機



**「ものづくり」の可能性とそ
のおもしろさに関する考察**

燕市と共に**産業振興活動**に取り組む「(公社)つばめいと」とも連携(**新潟大学燕市包括連携協定**)

メコン地域[派遣]

国際マーケットGWインターンシップ

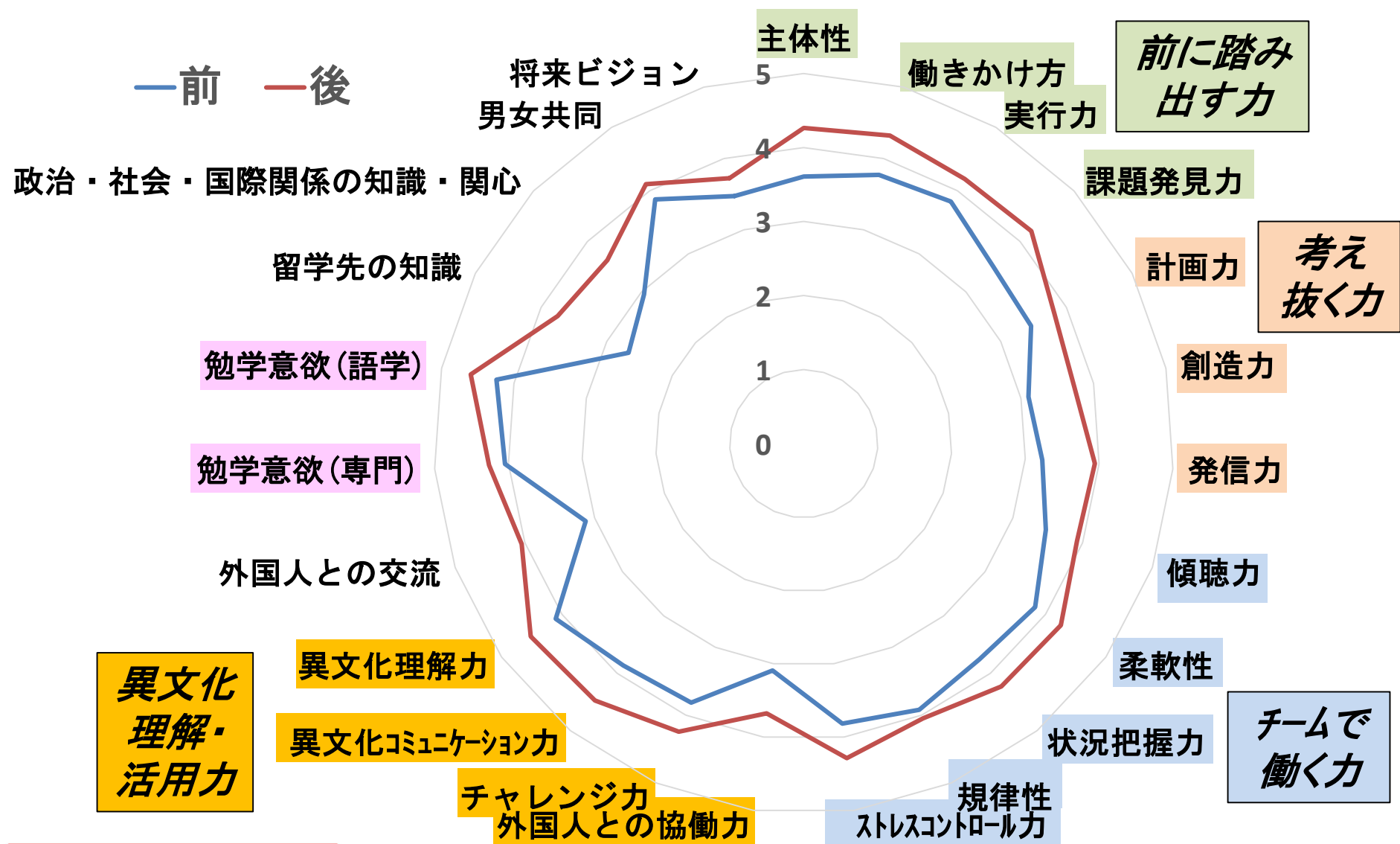


三条市内の企業のベトナムの現地法人: 産業用・工業用のハカリメーカー



ベトナムでのWIM設置後の過積載車両の迂回防止策に関する提案

H30年度プログラム参加前後の**全学生(ホスト学生含む)**に対するJASSO様式設問回答の解析



・「前に踏み出す力」「異文化理解・活用力」「勉学意欲」で高評価
 ・「考え抜く力」「留学先の知識」「政治・社会・国際関係の知識・関心」で高向上度₆

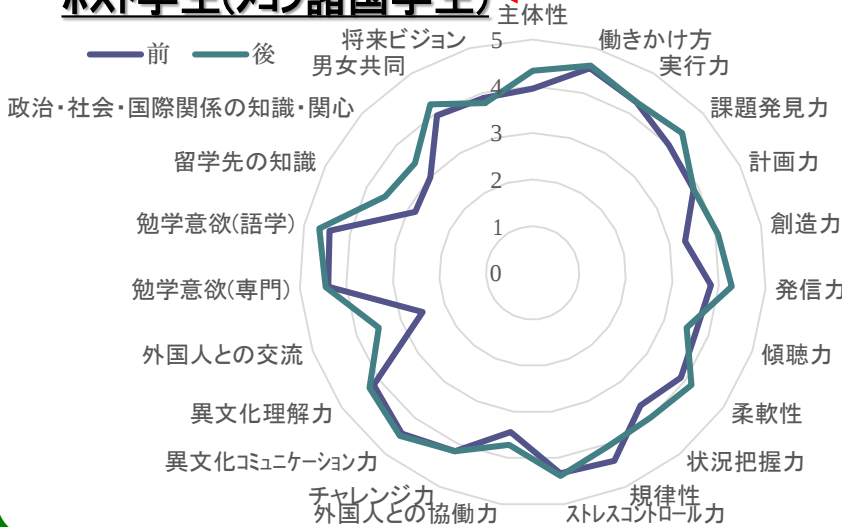


派遣留学生(新潟大学生)

H30メコン地域



ホスト学生(メコン諸国学生)

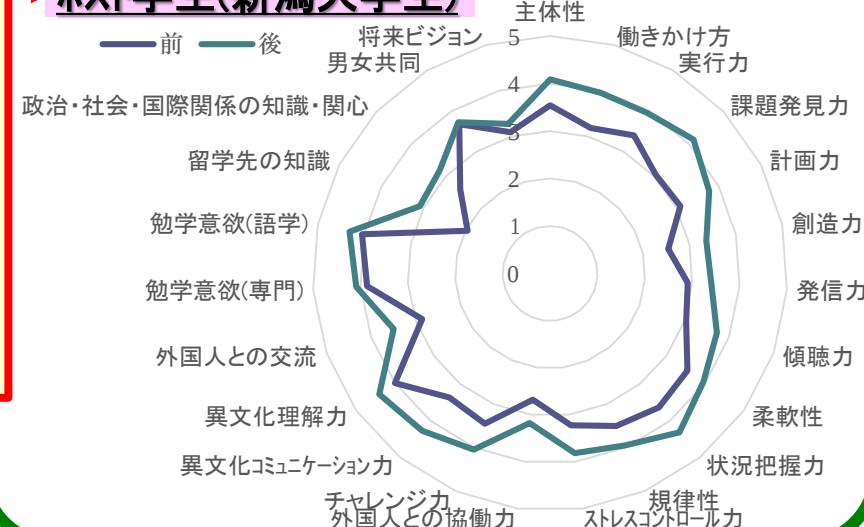


受入留学生(メコン諸国学生)

H30新潟地域



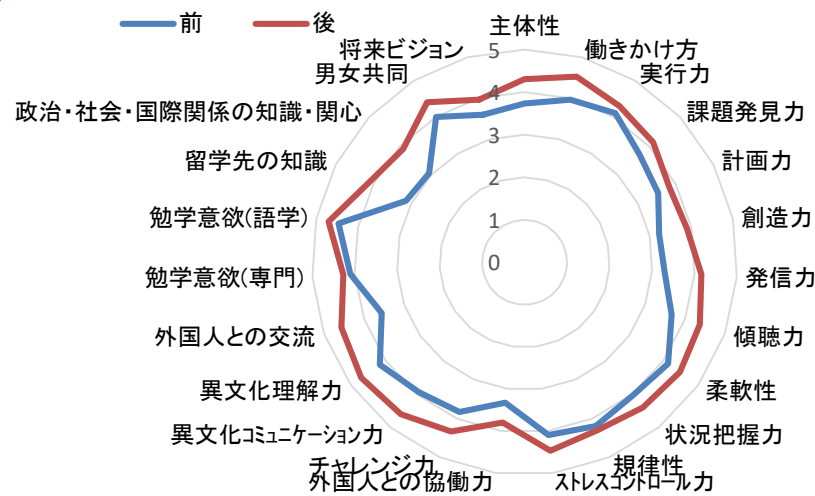
ホスト学生(新潟大学生)



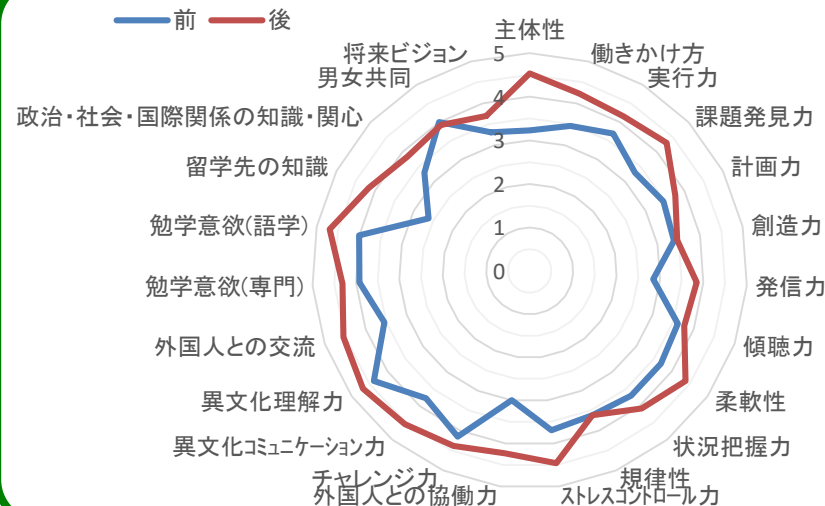
ホスト学生にもJASSO様式調査をプログラム参加前後で実施すること、比較分析可能とした。

新潟大生はメコン学生に比べやや低い自己評価傾向にみえるが、**すべてで参加後評価結果が向上し、留学後の評価結果が最も高い事実、本プログラムの有用性を示唆。**また、「**ホスト学生の参加後**」が「**留学生の参加前**」よりやや高い評価傾向なことは、ホスト学生に対して**留学前のステップアップ学習として効果的**であることを示唆。留学先知識や外国人交流は留学しないと向上率が低いこともわかる。

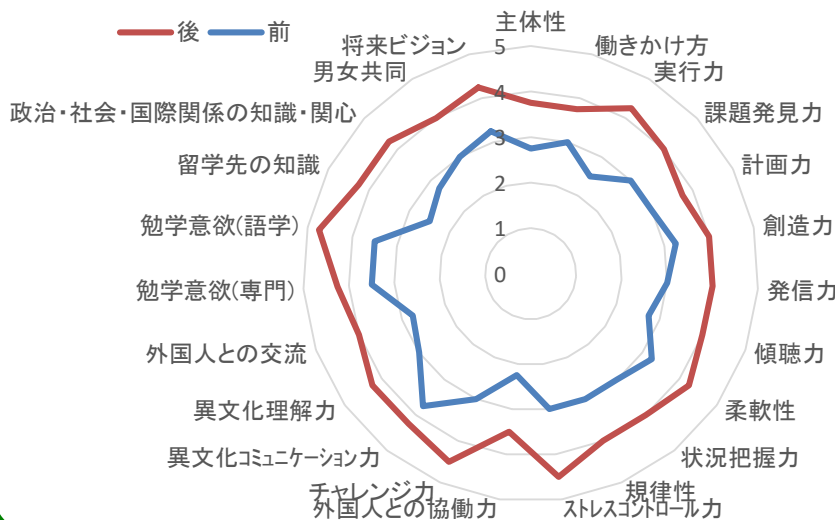
H30短期の派遣留学生と受入留学生



H30中期の派遣留学生と受入留学生



H30長期の派遣留学生と受入留学生



参加前評価結果が短・中・長期の順で低下している事実は、留学期間が長くなるにつれて渡航前の自己評価が厳しくなる(慎重で真摯な心意気になる)傾向が現れることを示唆していて、興味深い。

短・中・長期の順で参加前後での評価結果の向上度が増大する事実から、留学期間がより長い方が本プログラムの効果が増大することがわかる。

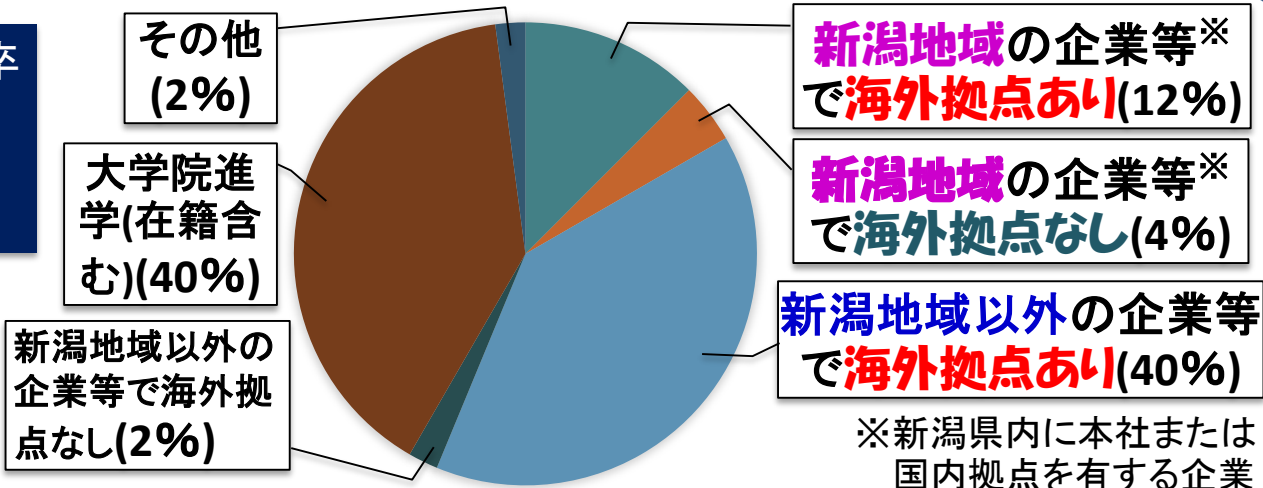
ステップアップ複数回参加学生:29人 (2プログラム:27人,3プログラム:2人)

◎ホスト参加から留学へ:21人 ◎より長い期間へ:17人

(※波及効果例:トビタテ!留学JAPAN採択2人)

H28-R1年度参加新潟大生の卒業・修了者(48人:見込含む)の現時点での進路状況(内定含む)(※学部生23人,院生25人)

就職・進学活動の際に、
留学交流経験の学びが
自己アピールで有用



キャリアビジョン形成に関する参加学生の声

- 日本のものづくりは海外との関わりなくして成り立たないことが分かった。
- 技術的なことだけでなく、世界情勢などに視野を広げて学ぶ必要があると感じた。
- 海外で働きたいというビジョンが明確になった。確信に変わった。
- メコン諸国の産業発展に貢献したいという目標ができ、就職活動の軸となった。
- 臆せず発信していく気持ちやリーダーシップなどを今後の就職活動に生かしたい。
- 生産管理だけでなく品質管理の重要性が分かった。就職後、自国でも生かしたい。
- 燕市の金属加工産業のポテンシャルが理解できた。将来ビジネス関係を持ちたい。
- 新潟での経験を活かし、国際技術者のまとめ役になり、自国産業発展に貢献したい。
- 日本の企業の技術や働き方を体験し、就職希望先が自国の日系企業に変わった。

名古屋大学

ASEANと日本を繋ぐ「グローバル・ソフトインフラ基礎
人材」育成プログラム

大学の世界展開力強化事業 (ASEAN対象プログラム)

令和元年 プログラムの実施状況

名古屋大学経済学研究科

助教

志賀 奈月美

(本事業実施委員長 土井康裕教授代理)



名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

本事業の各プログラム

◆すべて計画通りに実施することができる

- 派遣：カンボジア・ベトナム・ラオス・ミャンマー・シンガポールへ
- 受入：上記5か国より、5つの短期プログラムと長期プログラム

◆各プログラム、地域の企業や公的機関と連携し；

- 体験型の教育を提供
- 学識を実践できる能力を育成
- グローバル人材としてのコミュニケーション力の訓練の
実施

⇒ビジネス・プラクティス・ワークショップ



交流プログラムにおける成果

◆外国人学生の受入：

- 受入プログラムは、協定校で高く評価されている
- 企業・公的機関協力の下での現地調査が興味を引く

2018年度	人数
受入	60
派遣	88

◆日本人学生の派遣：

- 学内での数度の説明会開催を通し、広報を充実
- 学生間の口コミも利用
- 事前研修の一環として、危機管理オリエンテーションを実施



企業体験・インターンシップ等の取り組み

授業の実施

◆International Communication：

◆リーダーシップ開発実践：

- 幅広い業種の企業から特別講師を招く
- (日本人学生)海外についての課題に接する機会
- (日本人学生)英語でのディスカッション
- (留学生)日本企業の文化を体感
- (留学生)自身の知識や能力を活かす経験
- (地元企業)見えなかった海外展開への課題を理解する
- (地元企業)外国人の能力を知る機会⇒雇用への試金石



企業体験・インターンシップ等の取り組み

受入・派遣Pにおける企業体験

◆受入：

- 進出希望先（国、地域）の文化背景や価値観の理解
- 留学生ならではの着眼点や発想への期待

◆派遣：

- 現地の特性を理解した実践的なマーケティング
- アンケート調査・インタビュー調査
- 協定校との連携による調査



これまでの参加企業一覧：



- 三井物産（中部支社）、ポッカサッポロ、株式会社コモ、Hoyu、瀧川オブラート、UL、中部国際空港、Dynapac、Solaris Hope、C-ENG、イケックス工業、デルタ航空、カクダイ製菓、JTL(株)、三重トヨタ自動車など

テーマ：

- アセアン市場への参入の可能性や海外で受け入れられる商品の開発を中心としたアセアンの市場調査、現地でのインタビュー調査など



今後の課題

- 少ない予算内での質の維持・向上
- 留学を希望する学生への経済的支援
- 学生数の確保



○広島大学／広島経済大学

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する
研究力と社会起業力の融合人財育成

CLMV諸国の持続可能な平和、幸福、発展に貢献する 研究力と社会企業力の融合人財育成プログラム

海外提携大学

ミャンマー連邦共和国 

ヤンゴン大学
ヤンゴン歯科医学大学
ミエック大学

ベトナム社会主義共和国 

国家大学ハノイ校自然科学大学
国家大学ハノイ校人文社会科学大学
国家大学ホーチミン市校自然科学大学
国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学
ホーチミン医科薬科大学
国家大学ホーチミン市校工科大学
ベトナム交通運輸大学
貿易大学

ラオス人民民主共和国 

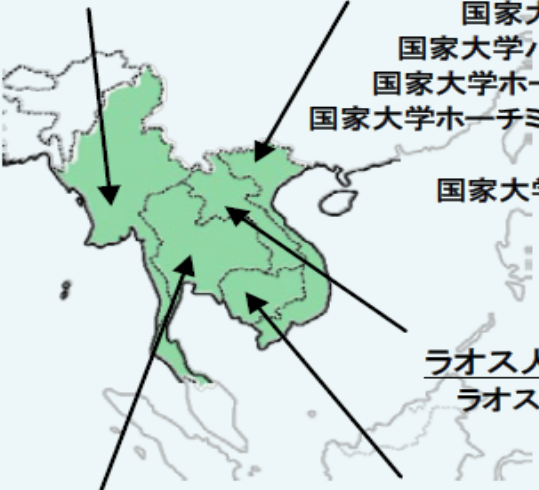
ラオス国立大学

カンボジア王国 

王立プノンペン大学
カンボジア国立健康科学大学

タイ王国 

カセサート大学



国内連携大学



- 広島経済大学



広島経済大学
Hiroshima University of Economics

専門教育・研究

国連の掲げるSDGsを以下の5つの領域に分け、
関連専門教育を提供しています。



医療



食



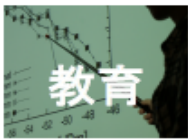
環境



資源

生命インフラ
食品生産技術、生物資源学、口腔保健学

持続的発展インフラ
環境科学、土木工学、生態学



教育



雇用



言語



文化

人材教育インフラ
教育政策、カリキュラム開発、STEM教育

伝統・尊厳インフラ
言語学、日本文化研究、地域研究、文化人類学、人と環境学



国際
経済



国際
経営

経済発展インフラ
理論経済学、応用経済学、国際金融論、国際経営論

プログラムの進捗状況について

■ 学生のモビリティとターム制に基づく多層的な交流

	2018年度					
	計画	実績				
学生の派遣	50	50	----->	派遣	33	17
学生の受入れ	49	38	----->	受入れ	27	11

- カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム及びタイの12大学へ合計50名の学生（うち日本人学生43名）を派遣
- カンボジア、ミャンマー、ベトナム及びタイの12大学から合計38名の外国人留学生を受入れ

■「国際課題研究」科目*

国際組織と部局の連携による情報発信力及び研究力の強化



国際組織教員による学術プレゼンテーション指導

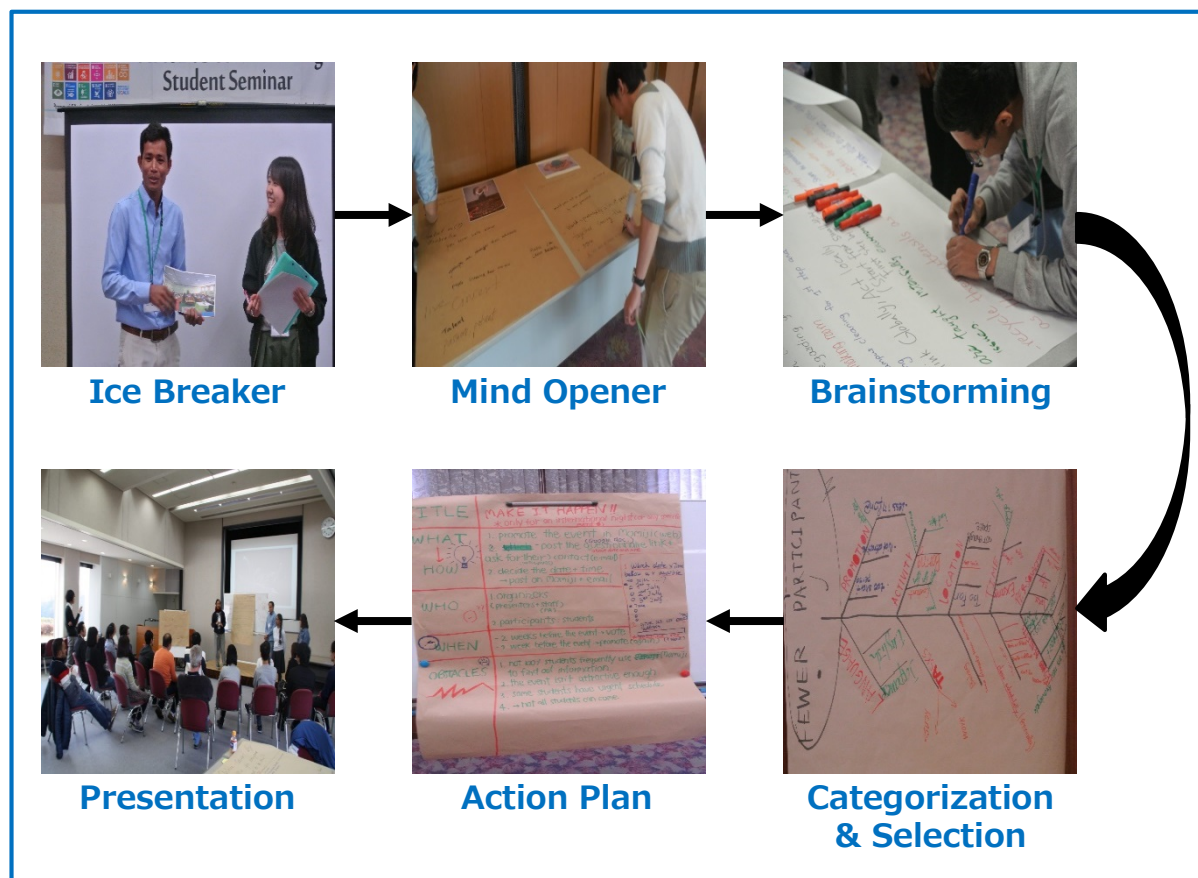


部局指導教員による専門的な研究指導

*本学に1ターム以上滞在する受入れ学部交換留学生は必修（受入れ大学院留学生及び日本人学生も受講可）

■ SDGsアイディアマイニング*学生セミナー

日本人学生と留学生の合同ワークショップによる創造的問題解決力の強化



SDG 13（気候変動）をテーマに議論
[2018年11月]

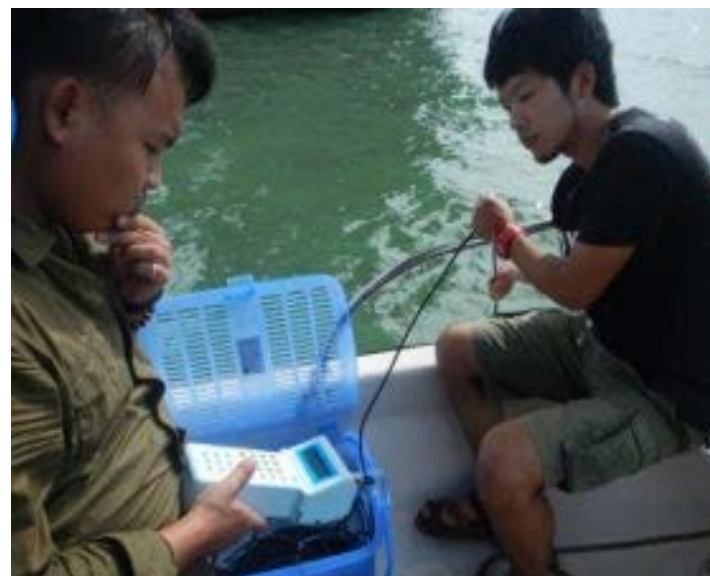
* ミュンスター大学（ドイツ）が開発したアイデア発掘手法を教育に応用した問題解決型ワークショップ

■ 企業体験・インターンシップ



<ベトナム>

清水建設の地下鉄工事現場でのインターンシップ



<ミャンマー>

JIRCAS（国際農林水産業研究開発センター）の
イワガキ養殖プロジェクトでのインターンシップ

* 他に公立小学校及び高等学校での学習指導（カンボジア）、現地大学での日本文化・社会の講義（ベトナム）、歯科医療現場でのインターンシップ（ベトナム）、農村ホームステイ型就業体験（タイ）など

課題

- 研究分野での専門水準のギャップへの対応
→派遣先での研究活動がもたらす教育効果の明確化
- 学部学生のターム～中長期派遣の充実
→単位互換が可能な形での効果的プログラミング
- 長期的なインターンシップ
→派遣先での教育プログラムとインターンシップの
カリキュラムマネジメント

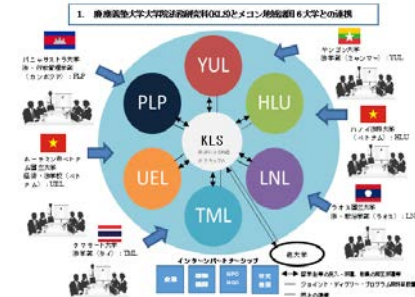
慶應義塾大学

アジア発グローバル法曹人材養成プログラム

プログラムの進捗状況について

プログラム開始から4年経過。年々規模が拡大している（表1参照）

- 短期交流プログラムは、ベトナム（ハノイ・ホーチミン），カンボジア，タイ，ラオスの4カ国5地域で実施した。
- 2019年度は夏にハノイにて、連携6大学と共に比較憲法を題材にプログラムを実施した。
- 12月には、留学生向けの短期プログラムを東京で開催するとともに、2月には、日本人学生向けの春プログラム（ミャンマー）の開催準備を進めている。



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (10月時点)
派遣	16	20	20	13 (目標・21)
受入	1	20	45	27 (目標・42)

表1 年度別留学生派遣・受入実績

（慶應グローバル法研究所（KEIGLAD）<http://keiglad.keio.ac.jp/information/>を元に作成。）



シンポジウム（2017年3月・慶應義塾にて）



サマースクール（2018年8月・ベトナム）



エクスターンシップ（2019年2月・ラオス）

プログラムの進捗状況について

学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援

長期休校期間を利用したエクスターンシップ・プログラム（国内・海外）の提供

国内エクスターンシップ

対象：LL.M.生（世界展開力事業受入正規生も含む）

期間：10日間（2単位科目）

派遣先：法律事務所や企業等

実施内容：学生1人に指導員1人。

例1：大手日系法律事務所

学生の出身国に関する法情報の調査、翻訳、個々の案件に対するアプローチ方法の検討など。

例2：日系大手国内メーカー・法務部

進出国の法情報の取得（学生出身国および周辺国の個人情報保護法に関するレポートの作成）、株主総会準備への参加など。

評価方法

レポートの提出

プログラムの進捗状況について

学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援

長期休校期間を利用したエクスターンシップ・プログラム（国内・海外）の提供

学生によるディスカッション（2017年3月・カンボジア）

海外エクスターンシップ

対象：J.D.生、LL.M.生

期間：5～10日間（J.D.生：1単位、LL.M.生2単位科目）

派遣先：海外提携大学、現地進出法律事務所など。

受入国の法実務の学修を基本的な要素とし、プログラムを立案する。

実施内容：①現地受入大学との間で実施する比較法プログラム。

②事前共通課題について英語によるプレゼンテーションとディスカッション。

③各国の社会的・文化的特色に配慮した活動（フィールドスタディー）

や国家機関の訪問（裁判傍聴や国会見学など）。



評価方法

レポートの提出



法律事務所での研修（2018年9月・ベトナム）



国会見学の様子（2019年9月・ベトナム）

プログラムの進捗状況について

学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援

長期休校期間を利用したエクスターンシップ・プログラム（国内・海外）の提供

国内エクスターンシップの成果

- ・将来の進路選択に向けた情報収集という点で評価がある。

LL.M.生向けエクスターンシップ（国内）履修者の声

- ・ 日系大手企業でインターンをした経験は、インハウスローヤーあるいは法務部で働くとはどういうことか考える機会となった。（2018年9月修了・現在、韓国系法律事務所にパラリーガルとして勤務、弁護士試験準備中）
- ・ 法実務の観点から、法律を学ぶことができた。エクスターンシップ先からの課題を通じて、自国法（ベトナム法）についても深く知ることができた。（2019年3月修了・現在、大学講師任用研修中）
- ・ 2週間という短い期間で学べる法的知識は限られているが、自分が将来どういう仕事をやりたいのか考えるきっかけとなった。また弁護士として働くことのイメージを持つことができたことは、とても貴重だった。（2019年9月修了・現在、日系法律事務所にパラリーガルとして勤務、弁護士試験準備中）

プログラムの進捗状況について

学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援

長期休校期間を利用したエクスターンシップ・プログラム（国内・海外）の提供

海外エクスターンシップの成果

法科大学院での勉強成果の確認や今後の司法試験に向けた準備、語学学習のモチベーション向上に役立っている。

エクスターンシップ（海外）履修者の声

- エクスターンシップは、他国の法を知ることにより自国の法をよりよく理解できたと感じる。また、テキストや条文等が一切ない中で日本法について質問された時に答えることができ自分の知識の定着を図ることができた。弁護士会への訪問では女性法律家のあり方や割合について知ることかでき、インスパイアされた。また、フィールドスタディでは収容所を訪れる機会があり、人権や死刑制度について深く考えるきっかけになった。（2019年9月 ハノイプログラム参加者、在学生（2年生））
- どんなアイデアであっても、適切にアウトプットできなければ、相手には伝わらない。それは英会話、普段の定期試験、司法試験においても同様である。アウトプットを意識した学習をしていこうと思う。（2017年3月ホーチミン・プノンペン参加者、73期司法修習予定）

プログラムの進捗状況について

学生の出口対策を見据えたキャリアパス支援

長期休校期間を利用したエクスターンシップ・プログラム（国内・海外）の提供

国内エクスターンシップの課題

- ・期間が限られているため、実務能力の習得や向上にまでは至らない。
- * 学生個人が、エクスターン後、別の企業や法律事務所へ個別にインターンを申し込み、実務経験を積むケースは見られる。

海外エクスターンシップの課題

- ・ロースクール生の場合、司法試験に向けた準備を重視する傾向が強い。試験に必ずしも直結しないため、応募をためらう学生がまだ多い。

対応：過去のエクスターンシップ報告書の閲覧や担当者による説明会の実施。要望があれば、過去の参加者を個別に紹介する。

世界展開力事業終了後の資金確保の課題

対応：「アジアにおける法学教育連携推進資金」を設立。

協定締結までの期間の長期化の課題

- ・協定案を作成しても大学、国の制度の違い等により、正式承認が下りるまでに時間がかかる。



アジアにおける
法学教育連携推進資金



（アジアにおける法学教育
連携推進資金リーフレット）



（2019年5月・ヤンゴン）

明治大学

CLMVの持続可能な都市社会を支える共創的教育システムの創造



1 明治大学の取組について

● 事業の目的

日本の過去の教訓を踏まえた「先進的なアジア型の将来都市構想」と、これを実現する「共創的教育システム」を創造すること

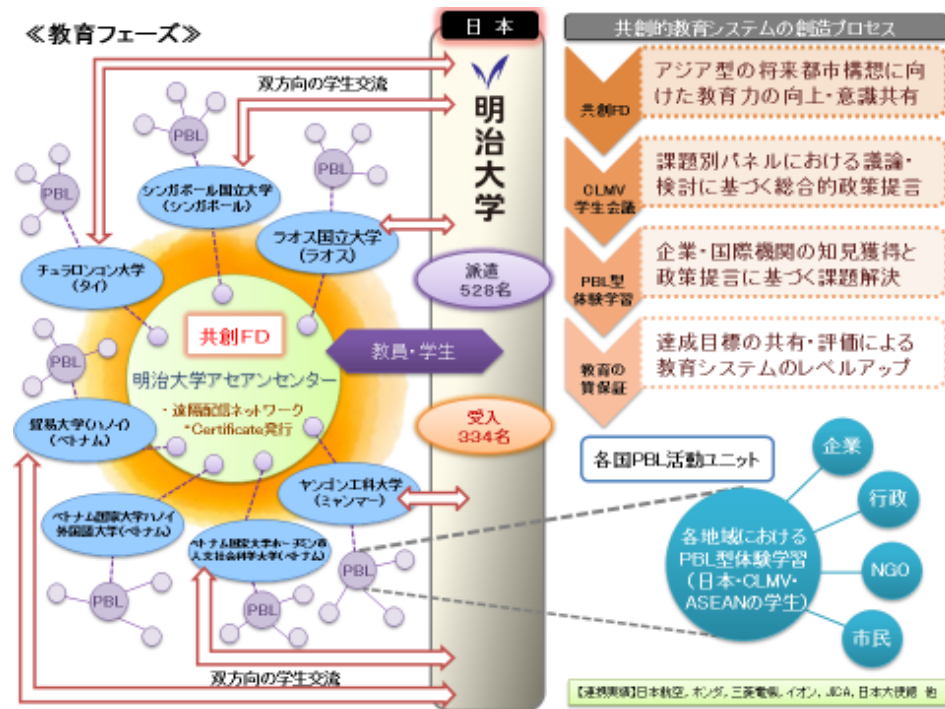
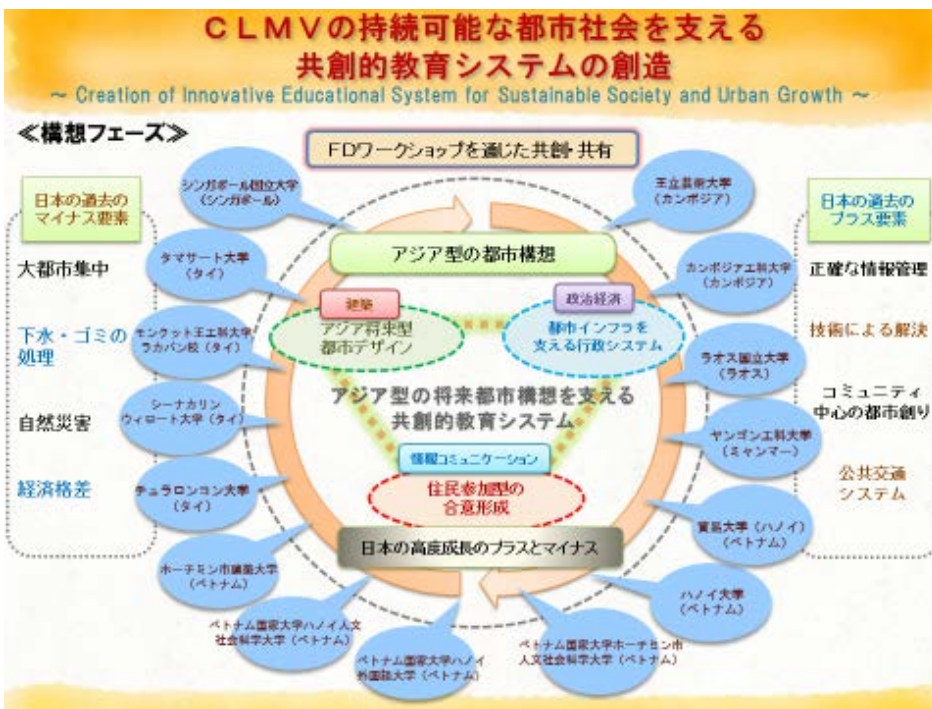
● 三つの取組部局

政治経済学部、情報コミュニケーション学部、理工学部建築学科及び理工学研究科建築・都市学専攻

1 明治大学の取組について

二つのフェーズ

- ✓ ASEAN・CLMV連携大学との協働で生み出す「構想フェーズ」
- ✓ 「先端的なFD」と「PBL型体験学習」を通じてCLMV連携大学の教育カリキュラムに実体化してゆく「教育フェーズ」



＜構想フェーズ＞

＜教育フェーズ＞

2 プログラムの進捗状況について

(1) 明治大学アセアンセンター(バンコク)で 2019年度「共創FDワークショップ」「CLMV学生会議」実施

3回目の開催となった今回は、2019年8月23日～25日に、交流先大学のうち10大学より教員10名・学生21名を招聘、本学からは取組部局の教員・TA10名・学生29名が参加して実施。活発な議論やフィールドワークを通じ、各国が抱える都市化に伴う課題を共有・解決へ向けた提言にまとめるべく「アジア型の将来都市構想」の可能性について意識共有を行った。



2019年8月 共創FDワークショップ・CLMV学生会議(タイ・バンコク)

2 プログラムの進捗状況について

1-1. 共創FDワークショップ



「アジア型の将来都市構想」について議論
将来的に国際的かつ地域に根差した
スペシャリストの育成を目的とする
教育システムの創造を目指す

1-2. CLMV学生会議

本学および交流大学の学生が4グループに分かれ、各地域の「貧困」「交通」「観光」「市民参加」をテーマに議論、最終日Wrap Up Sessionで各グループによるプレゼンテーションを実施、教員からのフィードバックを受けた



2 プログラムの進捗状況について

(2) 「共創FDワークショップ」「CLMV学生会議」開催 に合わせて「PBL型体験学習」プログラムとして、 現地国際機関等へのフィールドワークを実施

2019年8月23日にタイの政府機関 The Community of Organizations Development Institute(CODI)と
クロントイのスラム地区を訪問



以下、各取組部局独自の体験学習例

- ✓ 政治経済学部：現地日系企業訪問および国際機関訪問
- ✓ 理工学部及び理工学研究科：現地設計事務所訪問およびCLMVと
タイ・シンガポールの大学との共同ワークショップの実施
- ✓ 情報コミュニケーション学部：模擬国連の実施 など

2 プログラムの進捗状況について

(3)「国内版PBL型体験学習」プログラムを実施

- 2019年9月25日 渋谷再開発地区を視察
(昨年度は11月に大丸有地区（大手町，丸の内，有楽町）で実施)
- 渋谷ストリーム（旧渋谷駅南街区）の商業地区および渋谷川の再開発を，同地区開発企業から講義を受けながら，視察を行った
- 各取組部局より，CLMVおよびタイからの受入れ学生36名が参加



2019年9月 PBL型体験学習(渋谷)

2 プログラムの進捗状況について

(4) 昨年度(平成30年度)の交流プログラムにおける 学生のモビリティについて

概ね達成。今後
長期留学者数を
増やしていきたい

ア 日本人学生の派遣 【計画122名 実績115名】

- ✓ **政治経済学部**
ベトナム諸大学及びタイ諸大学との短期・長期交流プログラムで
40名の学生を派遣
 - ✓ **理工学部及び理工学研究科**
チュラロンコン大学他に、学生46名を派遣。うち13名が
ワークショップでカンボジア、ラオス、ベトナム等の6大学15名の
学生と交流
 - ✓ **情報コミュニケーション学部**
短期・長期プログラムを通じベトナム、タイの大学等に29名を派遣
- 総数 3か月未満 104名 3-6か月 2名 6ヵ月-1年 9名

2 プログラムの進捗状況について

目標達成

イ 外国人留学生の派遣【計画80名 実績89名】

✓ 政治経済学部
タイ及びベトナムの諸大学より 32名

✓ 理工学部及び理工学研究科
CLMVおよびタイの諸大学から 34名

✓ 情報コミュニケーション学部
ラオス、ベトナム、タイの各大学より 23名

総数 3か月未満 70名 3-6カ月 14名 6カ月-1年 5名